

イネカメムシを防除しましょう

昨年、県内ではイネカメムシによる著しい減収や品質低下が発生しました。
イネカメムシは、若い穂を求めて水田から水田に移動するため、広域的に一斉に防除を実施することが効果的です。今年も多発生が見込まれるため、地域で広域防除に取り組みましょう。

【イネカメムシの防除対策】

不稔を回避するためには、
出穂期～穂揃期の防除が重要

対策① 出穂期～登熟初期の薬剤防除（2回）

- 虫がイネを加害する出穂期～登熟初期に2回の薬剤散布を行う。
1回目：出穂期～穂揃期（不稔の防止）
2回目：出穂期の8～14日後（斑点米の防止）
- ジノテフラン剤、エチプロール剤が有効とされるため、裏面を参考に薬剤を選択。
- 粒剤を施用する場合は、処理を数日早める。
- 薬液が直接虫にかかるように、薬剤散布はなるべく早朝に実施する。



品種	4月		5月		6月			7月			8月			9月
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上
コシヒカリ	田植										1回目防除			
彩のきずな			田植								2回目防除			
彩のかがやき			田植								2回目防除			

対策② 収穫後の耕うん

- 収穫後の再生株（ひこばえ）が秋の成虫・幼虫の餌資源となる。虫の越冬率を高める恐れがあるため、収穫後は速やかに耕うんして株を埋没させる。
- 越冬場所に移動する10月中下旬頃までに耕起することが望ましい。
ヒメトビウンカの対策としても有効。

・薬剤散布の防除効果は？

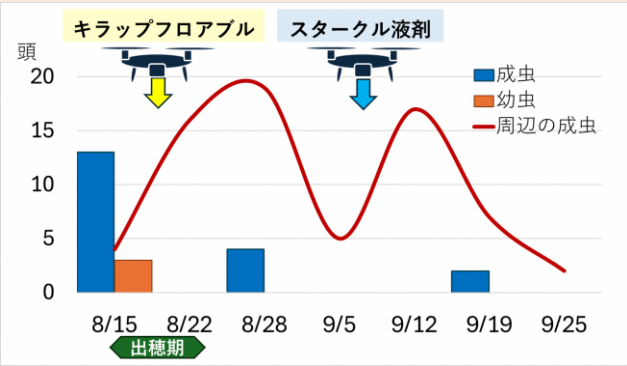
イネカメムシの発生が多かった地域・作型において、ドローンによる出穂期のキラップフロアブルまたは粒剤処理と乳熟期のスタークル液剤処理によってイネカメムシの定着を防ぎ、斑点米の発生を低く抑えることができました。

（県農業技術研究センターの現地実証試験結果から）

・経営上のメリットについて（試算）

イネカメムシが多発した地域での実例をもとに収益を試算した結果、無防除よりも2回防除を実施した方が10アール当たり約7.8万円高くなりました。

- ※1 令和6年度に県で調査した県東部地域生産者の聞き取り結果からの平均値
- ※2 平均収量×令和6年産米の相対取引価格（R7.1月 埼玉コシヒカリ 年産平均価格）
- ※3 空中散布による防除委託2回分の経費（薬剤費込み：防除業者からの情報を基に推定）



10aあたり	防除回数	
	0回	2回
平均収量※1	286kg	515kg
売上※2	10.5万円	18.9万円
防除費※3	0円	0.6万円
売上－防除費	10.5万円	18.3万円
		+7.8万円！

収益が得られるようしっかりと防除対策を行いましょう！

【イネカメムシの特徴】

- ・斑点米カメムシ類の1種
- ・体長13mm、黄褐色
- ・出穂期にイネを吸汁し、不稔や斑点米を引き起こす
- ・特にイネを好み、越冬場所から雑草を経由せず直接イネに飛び込む（除草管理だけでは防除が困難）



不稔により粳が垂れない 吸汁による斑点米の発生

【イネカメムシの発生サイクル】



【イネカメムシの防除薬剤例】

令和7年2月12日現在の農薬登録状況

商品名（有効成分）	IRAC	散布方法	倍数・散布量	使用回数・時期
キラップフロアブル （エチプロール）	2B	散布	1,000～2,000倍	収穫14日前まで 2回以内 *1
		無人航空機による散布	8～16倍	
スタークル液剤10 （ジノテフラン）	4A	散布	1,000倍	収穫7日前まで 3回以内 *2
		無人航空機による散布	8倍	
エクシードフロアブル （スルホキサフロル）	4C	散布	2,000倍	収穫7日前まで 3回以内
		無人航空機による散布	16倍	
トレボン乳剤 （エトフェンプロックス）	3A	散布	2,000倍	収穫14日前まで 3回以内
キラップ粒剤 （エチプロール）	2B	湛水散布	3kg/10a	収穫14日前まで 2回以内 *1
スタークル豆つぶ （ジノテフラン）	4A	散布	250g/10a	収穫7日前まで 3回以内 *2

*1「キラップフロアブル」「キラップ粒剤」は同一成分であるため、連用は避ける。
*2「スタークル液剤10」「スタークル豆つぶ」はそれぞれ総使用回数は3回以内だが、共通の有効成分（ジノテフラン）の総使用回数は4回以内であるため、使用回数に注意。また同一成分であるため、連用は避ける。
・農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法を十分確認の上、最終有効年月までに使用する。
・農薬の使用に際しては次のホームページで確認する。農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

イネカメムシ防除に係る御相談は、お近くの県農林振興センターか
発行元のいずれかに御連絡ください。連絡先は、右のQRコードから御確認ください。

